

カーブカット効果の教え

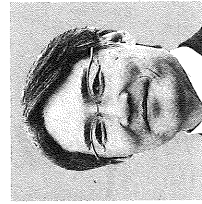
週のはじめに考える

今年の大学入学共通テスト二日目
は、大学周辺にバトカーが常駐する
光景が見られた。前日の試験会場を
ばで起きた切りつけ騒ぎへの対応と
される。また、訪問医師殺傷事件へ
の対応として警察官の同行を求める
声も出ているという。車内トラブル
や事件に対応するため、電車やバス
など公共交通機関ではカメラが整備
され、車のドライブレコーダーは自
身を守るためにも必須とされる時代
だ。一部始終を写しているというこ
とは、個々人が他者から見られ記録
されることでもある。

不自由さを甘受してでも社会全体
の安心・安全を求める風潮はいまに
始まったことではない。防犯カメラ
は公設に限らず街中に設置されてお
り、実際には抑止効果とともに監視
や捜査に利用されている。警察が道
路に設置しているシステムも、自
動車ナンバーの自動読み取りによる
特定車両の追跡に不可欠な制度とな
っているし、携帯電話の衛星利用測
位システム(GPS)機能によって
常時私たちは捕捉され続けている。
これらは包括的な情報の吸い上げに
よる社会監視システムの一形態だ。
その利用のカタチは、コロナ禍で日
常的に活用されるようになった人流
データに限らない。

このように、個人として、そして
社会としても、あえて「不自由」を
求める状況をどう考えればよいのだ
ろうか。たとえば治安という言葉の
イメージも、今と昔では大きく変わ
ってきている。かつて破壊活動防止
法には、ほぼ一致した恣意的運用を
危惧する声があり、結果として適用
事例は極めて限定的だ。風俗営業取
締法制定時には、「テートもできな
い風営法」というキャッチコピーが
共感をもって受け止められたとされ

不自由による安定の希求



時代を読む

山田 健太
専修大学教授

る。しかしまや積極的に行政(と
りわけ警察)の力を期待することが
少なからずあり、むしろ自由の切り
売りによって社会の秩序が形成され
ているという点もよい。

不自由さになれることで自由の大
切さやよさは忘れがちになる。さら
に、こうした感覚が続くと、そもそ
も不自由であることすら意識しなく
なるだろう。その結果、たまたま不
自由さを指摘するよつな声が出る
と、「自由の歴史違えた」とか「状
況をわきまえろ」といったバツシ
グの対象にすらなつてきている。そ
れは、さまざまな場面で顔を出す。
たとえば、テロと番組と五輪反対ウ
チを揶揄する字幕が流されたことか
ら考えても、広場や公道を使用する
よつな抗議活動が社会にとって「害
悪」であるとの思いが、このほか
日本社会に浸透している可能性を
定できない。

冒頭の巻き込み型犯罪の背景や要
因について軽々にいづべきではない
が、すでに専門家からも孤独感や疎
外感が背景にあるとの指摘がある。
その結果として積極的に不自由を選
択し、身勝手な承認欲求の充足や、
拘置による社会との接点の獲得とい
う、ゆがんだ循環が生まれているこ
の見方もある。

警備や監視の強化と刑罰としての
自由の剥奪は全く異なる局面ではあ
るものの、不自由さによる安定の希
求という点で、いまの社会が抱える
矛盾を映し出している。しかも、
将来を見通せず、不透明感が漂つ不
安定な社会状況の中で、不自由の連
鎖は止まらず、ますます拡大する傾
向にある。ただし、こうした一時的
な安定は、不自由の道から抜け出せ
ないばかりか、より大きな不幸につ
ながるとを歴史は示している。

2022.2.13



2012年10月、自民前で記
質問に答える東京都知事時
原真太郎氏(東京都大田区)

一日に亡くなった石原慎
京都知事の訃報について、
批判がたくさん寄せられて
紙面の扱い、足跡や人物像
な報し方への批判のほか、
氏の差別発言の報し方に厳
が相次いでいます。

「功績を持ち上げ、差別
原節を済ませる始末」「多
を与える立場でありながら、
別意識をまき散らしていた
〇〇節で済まされることな
らうか?」との指摘です。九
音の「コラム」でも、斎藤美
から「無責任な追悼」とし
の指摘を受けました。

「ギダワワーカーってどんな意味?」。本紙
7日朝刊シルマナブ面の見出しに、東京都内
の男性から問い合わせがありました。
こちらにも初めて目にした言葉。記事を読み
解くと「インターネット経由で単発の仕事
請け負う人」を指し、近年急増している
か。「ウーバーイーツの配達員が典型」とあ
り、「カタカナ語は理解するのに大変。辞書に